

* 【科目情報】

授業コード	1FCB305010	科目ナンバリング	FCALAW71030-J1
授業科目名	刑事訴訟法		
担当教員氏名	川崎 英明		
開講年度・学期	2022	後期	曜日・時限
			月曜
授業形態	講義		
科目分類	法律基本科目		
配当年次	1年次	単位数	2

* 【シラバス情報】

* 授業概要	本講義では、2年次の「刑事訴訟法総合演習」、3年次の「刑事法理論の展開」「刑事訴訟実務の基礎」「刑事模擬裁判」を受講するうえで不可欠な刑事訴訟法に関する基本的知識を扱う。
* 到達目標	刑事訴訟法の基本原理、諸制度、基本概念等についての基本的知識を体系的に養うとともに、個別の論点をめぐる判例実務や学説の状況と問題点を理解し修得することが、この講義の目標である。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	刑事手続の流れと各手続段階の問題点	
第2回	捜査の始まり	職務質問と任意捜査をめぐる理論的問題と判例実務の問題点の検討
第3回	身体拘束と取調べ	逮捕・勾留の要件、別件逮捕・勾留の規制、取調べの法的性格等の理論的検討と判例実務の問題点
第4回	防御権（黙秘権と接見交通権）	黙秘権と接見交通権の権利内容とその射程、接見指定をめぐる問題点の理論的検討と判例実務の問題点
第5回	証拠収集：捜索差押えと新しい強制処分	捜索差押えの要件と令状執行をめぐる問題点、GPS捜査等の新しい強制処分の理論的検討と判例実務の問題点
第6回	捜査構造論と刑事訴訟の構造論	刑事訴訟法の解釈視点の検討
第7回	公訴提起の原則と公訴抑制論（訴訟条件論）	公訴権濫用論や訴訟条件論の理論的検討と判例実務の問題点
第8回	起訴状一本主義と訴因の特定	起訴状一本主義の意義と射程、審判対象論と訴因の特定に関する理論的検討と判例実務の問題点
第9回	訴因の変更	訴因変更制度の意味、訴因変更の可否と限界についての理論的検討と判例実務の問題点
第10回	防御の準備；保釈と証拠開示	保釈の要件と証拠開示のシステムと問題点の理論的検討と判例実務の問題点

第11回	証拠法の仕組み：挙証責任と証明方式、関連性	証拠の概念、挙証責任論の意義、証明方式、科学的証拠の証拠能力についての理論的検討と判例実務の問題点
第12回	伝聞法則 1；伝聞の概念	伝聞法則の意義と伝聞概念をめぐる問題点の理論的検討と判例実務の問題点
第13回	伝聞法則 2：伝聞例外	伝聞例外の体系的理解と伝聞例外規定に関する理論的検討と判例実務の問題点
第14回	自白の任意性と信用性	自白法則も意義と帰結、補強法則に関する理論的検討と判例実務の問題点
第15回	違法収集証拠排除法則と裁判の効力	排除法則の意義と射程、一事不再理効の根拠と射程に関する理論的検討と判例実務の問題点
第16回	期末試験	

* 授業内容	第1回授業は講義の形態で行う。第2回授業からは、事前配布レジュメに記載したQについて（可能な限りで）回答を準備する形で予習をしておいてもらいたい。その予習を前提として、教員が補足説明や解説を行う形で授業を進めることを想定している。
* 事前・事後学習の内容	

* 成績評価方法	絶対評価。期末試験を80%、平常点（予習状況や議論への参加状況等）を20%として評価する。
* 履修上の注意	第1回授業までに授業のレジュメを配布する予定であるので、第2回授業以降についてはレジュメのQに対する解答を準備する形で予習をしておいてもらいたい。
* 教科書	刑事訴訟法判例百選（第10版）
* 参考文献	白取祐司『刑事訴訟法・第10版』（日本評論社）、上口裕『刑事訴訟法・第5版』（成文堂）、三井誠『判例教材・刑事訴訟法・第6版』、後藤昭『伝聞法則に強くなる』（日本評論社）
* オフィスアワー	月曜日の授業終了後
* 教員への連絡方法（メールアドレス等）	06-6313-1545（しんゆう法律事務所）
* その他	